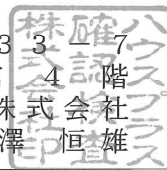


接合部性能試験成績証

試験結果は以下のとおりであることを証明する。
平成24年6月4日

東京都港区芝5-33-4
徳栄ビル本館4階
ハウスプラス確認検査株式会社
代表取締役社長 柳澤 恒雄



1. 接合金物名称	金物工法用2倍筋かい
2. 試験依頼者	株式会社タナカ 〒300-4111 茨城県土浦市大畑702-1
3. 目的	当該接合金物を用いた筋かい壁の終局時変形角が1/30rad以上であることを確認すると共に、短期基準せん断耐力から、筋かい端部接合部が負担する耐力を評価する。
4. 試験内容	筋かい壁の面内せん断試験(柱脚固定式) なお、準拠する試験方法・評価方法は、ハウスプラス確認検査株式会社制定「木造建築構造試験事業における接合部性能試験業務方法書(平成21年4月1日制定)」による。
5. 試験体仕様	<u>1) 試験体の寸法</u> 横架材間の内法寸法:2587.5mm 柱間隔(芯々間):910mm <u>2) 接合金物</u> 「金物工法用2倍筋かい」 材 質: SGHC (JIS G 3302^{*1}) 寸 法: 120mm×120mm×47.3mm、板厚t=2.3mm 留付け用孔: 柱留付け側 4-φ6.0mmエンボス加工 横架材留付け側 4-φ6.0mmエンボス加工 筋かい留付け側 11-φ6.0mm <u>3) 接合具</u> 柱側及び:「木ねじ TBA-45」各4本 横架材側 材 質: SWCH22A (JIS G 3507-2^{*2}) 寸 法: 頭径φ9.3mm 公称径φ5.3mm L=43mm 表面处理: Ep-Fe/Zn 5/CM2 C (JIS H 8610及び8625^{*3}) 筋かい側:「木ねじ TBA-45」5本 材 質: SWCH22A (JIS G 3507-2^{*2}) 寸 法: 頭径φ9.3mm 公称径φ5.3mm L=43mm 表面处理: Ep-Fe/Zn 5/CM2 C (JIS H 8610及び8625^{*3}) <u>4) 軸組材料</u> 梁: 105mm×180mm×1,500mm ベイマツ無等級材 含水率:11.5~13.5% 絶乾密度:0.45~0.52g/cm³ 土台: 105mm×105mm×1,500mm スギ無等級材 含水率:8.0~9.5% 絶乾密度:0.41~0.45g/cm³ 柱: 105mm×105mm×2,587.5mm スギ無等級材 含水率:8.0~11.5% 絶乾密度:0.38~0.46g/cm³ <u>5) その他</u> 筋かい: 45mm×90mm ベイツガ無等級材 含水率:10.5~11.0% 絶乾密度:0.46~0.51g/cm³ 間柱: 30mm×105mm×2,587.5mm スギ無等級材 含水率:10.5~12.0% 絶乾密度:0.36~0.39g/cm³ ^{*1} JIS G 3302 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 ^{*2} JIS G 3507-2 冷間圧造用炭素鋼—第2部:線 ^{*3} JIS H 8610及び8625 電気亜鉛めっき及び電気カドミウムめっき上のクロメート皮膜
6. 試験条件等	接合金物は実状にあわせた仕様としている。試験体の柱頭の接合は羽子板ボルトSB・E2を用いた。柱脚の接合は引寄せ金物S-HD15を用いた。
7. 試験結果	軸組の影響を考慮した短期基準せん断耐力 3.37 kN(引張方向、1mあたり) ≥2.94kN 筋かい壁の終局変形角(3体の最小値) 48.04 ×10 ⁻³ rad(1/20.8rad) >1/30rad (詳細は接合部性能試験報告書HP12-KT014に示す)
8. 試験場所	ハウスプラス確認検査株式会社 横浜試験研究センター:神奈川県横浜市鶴見区元宮1-12-24
9. 試験実施日	平成24年3月29日
10. 試験実施担当者	ハウスプラス確認検査株式会社 評定部 上杉 義則 道場 信義 千葉 博 加川 啓介

この接合部性能試験成績証を転載するときは、必ず全文を記載してください。